

岐路に立つ今

『病院経営』 医療経営士が語る

2024年度診療報酬改定は、病棟機能に求める「あるべき像」を明確に打ち出したといえるが、裏を返せば、その像を具現化できない病院は自らの進むべき道について再考を求められているとも言える。「今までどおり」が通用しなくなった今、病院は明確な経営戦略を描く必要があるが、その役割を果たすキーパーソンとして、医療経営の知識を身につけ、実務に携わりながら研鑽を深めている、「医療経営士」を挙げることができる。ここでは全国の医療経営士に、経営の専門人材の立場から、これからの病院の方向性について語っていただく。

INDEX

Part 1 ~活動の最前線から~

P14 | 北海道
道北医療経営ネットワーク

P16 | 東北
みやぎ仙台ネットワーク

P17 | 関東
神奈川研究会

P18 | 中部
静岡県東部医療経営研究会

P19 | 北信越
医療法人社団尽誠会 野村病院

P20 | 関西
関西医療経営勉強会

P21 | 沖縄
医療経営士沖縄県自主勉強会

Part 2 ~未来への提言~

P22 |
京都から日本の医療に新風を
自閑昌彦
医療法人徳洲会 宇治徳洲会病院
心臓血管内科医長
(医療経営士1級)

P24 |
病院のパートナーとして
熊田貴之
エーザイ株式会社
製品戦略推進部キーマン推進室長
(医療経営士1級)